



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月11日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 次長 (氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	13,903	35.5	501		32		313	
2022年3月期第2四半期	10,261	15.3	1,817		20		118	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 305百万円 (%) 2022年3月期第2四半期 119百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	146.66	
2022年3月期第2四半期	55.31	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	20,818	4,565	21.9
2022年3月期	21,664	4,871	22.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 4,565百万円 2022年3月期 4,871百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,196	20.1	571		94		651		304.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	2,139,434 株	2022年3月期	2,139,434 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	1,756 株	2022年3月期	1,617 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	2,137,762 株	2022年3月期2Q	2,137,916 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2022年11月18日に証券アナリスト及び機関投資家向けの四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症防止のための行動制限が緩和され、経済社会活動の正常化が期待された一方、世界的な物価上昇やウクライナ情勢等の地政学リスク、急速な円安の進行等により不安定な情勢が続き、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましては、新型コロナウイルスに関する営業時間等の制限は解除されたものの、原材料・エネルギー・物流等諸コストの高騰による物価上昇に対し消費者の生活防衛意識が強まったうえ、7月には新型コロナウイルス感染第7波が発生するなど、引き続き厳しい経営環境が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。また、消費者の意識・行動の変容を的確にとらえ、収益力を維持向上させていけるよう、新メニュー開発やフェア企画の実施を積極的に進めたほか、本格カレーのテイクアウト販売「カレー屋あんらくん」、韓国風ファストフードの移動販売業態「Raku Kitchen安楽亭」等、ブランド及び運営形態に関する実験的な取り組みも行っておりました。

コスト対策として、DXや業務改善による店舗人員体制の最適化、本社等間接経費の削減等、構造的なコスト見直しや生産性向上にも着手しております。また、採算悪化していた店舗を含め、当期間においてグループ計24店舗を閉店いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高139億3百万円（対前年同期比35.5%増）、営業損失5億1百万円（前年同期は営業損失18億17百万円）、経常損失32百万円（前年同期は経常利益20百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失3億13百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億18百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間末の店舗数は161店舗であります。内訳は直営112店舗、暖簾12店舗、FC37店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、物価上昇や感染第7波発生等で社会情勢が激しく変動するなか、消費者の意識・行動の変化に適応したメニュー開発や施策の実施を進めました。食べ放題の楽しさと注文しやすい価格帯を両立させる試みとして「肉定量＋サイドメニュー食べ放題」の「ピタ放題」をプランに加えたほか、焼肉食べ放題の新たなスタイルとして、定食と食べ放題を組み合わせた「和牛カルビ&ミスジ食べ放題定食」の販売、また、夜の外食復活を期したお得な飲み放題プラン「ハイホーダイ」の販売等、様々な顧客層及び利用時間帯へのアプローチに取り組みました。合わせて、「夏本番！肉まつり」、「『食べ放題 秋の祭典』最大400円引き」等のフェア開催や、よりお値打ち感のある商品をラインナップに加えたメニュー改定等、来店促進のための施策を積極的に展開してまいりました。

さらに、「非接触」のサービスのニーズに対応し、お客様のスマートフォンにてテーブルオーダーをしていただく「スマホオーダーシステム」の導入を推進したほか、既存店の付加価値創出の試みとして、好評の安楽亭オリジナルカレーにフィーチャーした「カレー屋あんらくん」を、安楽亭店舗をゴーストキッチンとして活用する形式で開始する等、新たな取り組みも意欲的に進めてまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は53億97百万円（対前年同期比38.0%増）となり、セグメント利益（営業利益）は0百万円（前年同期はセグメント損失5億95百万円）となりました。

② 七輪房業態

七輪房業態の当第2四半期連結累計期間末の店舗数は24店舗であります。内訳は直営19店舗、暖簾2店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「国産カルビ&ロース 至福の四点盛り」の販売等、七輪房の魅力をアピールする施策に取り組んでまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は8億55百万円（対前年同期比22.4%増）となり、セグメント損失（営業損失）は7百万円（前年同期はセグメント損失1億27百万円）となりました。

③ アークミール

アークミール業態の当第2四半期連結累計期間末の店舗数は直営130店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス(ステーキ)」、「donイタリアーノ(イタリアン)」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、安楽亭業態等と同様、積極的に来店促進の施策を展開し、「WILDスペアリブフェア」やSNS限定告知から人気メニューとなった「どんタワーハンバーグ」の発売、「焼き野菜を食べようフェア」(ステーキのどん)、「寿司食べ放題まつり」「黒酢酸辣湯しゃぶしゃぶフェア」(どん亭)、ステーキ店らしいトッピングが充実した「カレーフェスタ」や「店舗限定ステーキ食べ放題」(フォルクス)等の企画を実施いたしました。

以上の結果、アークミールの当第2四半期連結累計期間の売上高は74億23百万円(対前年同期比34.0%増)となり、セグメント損失(営業損失)は2億31百万円(前年同期はセグメント損失8億10百万円)となりました。

④ その他業態

その他業態の当第2四半期連結累計期間末の店舗数は8店舗であります。内訳は直営5店舗、FC3店舗であります。なお、その他業態には、「えんらく(焼肉食べ放題)」、「からくに屋(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「上海菜館(中華)」、「アグリコ(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「安楽亭ベトナム(焼肉)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第2四半期連結累計期間の売上高は2億27百万円(対前年同期比109.0%増)となり、セグメント損失(営業損失)は15百万円(前年同期はセグメント損失46百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ8億46百万円減少し、208億18百万円となりました。これは、現金及び預金の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ5億40百万円減少し、162億53百万円となりました。これは、長期借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ3億6百万円減少し、45億65百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等が要因です。

② キャッシュフローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、5億63百万円減少し、31億79百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、助成金の受取額6億26百万円、未払消費税等の増加額2億41百万円等により4億96百万円の収入となりました。前年同期は27億3百万円の支出でありました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出3億20百万円、無形固定資産の取得による支出44百万円等により3億1百万円の支出となりました。前年同期は97百万円の支出でありました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出5億62百万円、割賦債務の返済による支出1億45百万円、短期借入金の返済による支出74百万円等により7億64百万円の支出となりました。前年同期は1億63百万円の支出でありました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました業績予想から変更しております。詳しくは、2022年11月10日に公表いたしました「業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,948,393	3,385,111
売掛金	890,003	841,396
商品及び製品	584,421	736,735
仕掛品	2,869	3,414
原材料及び貯蔵品	1,045,491	1,157,248
前払費用	371,265	375,515
未収消費税等	48,876	—
その他	281,946	132,275
貸倒引当金	△4,917	△4,917
流動資産合計	7,168,351	6,626,778
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,262,934	3,235,949
機械装置及び運搬具(純額)	78,554	69,681
工具、器具及び備品(純額)	441,525	432,856
土地	6,080,942	6,080,942
リース資産(純額)	124,221	81,806
建設仮勘定	132,790	3,721
有形固定資産合計	10,120,968	9,904,957
無形固定資産		
のれん	24,267	18,200
その他	503,657	526,734
無形固定資産合計	527,925	544,935
投資その他の資産		
投資有価証券	144,644	143,214
長期貸付金	8,475	7,292
長期前払費用	265,852	249,012
繰延税金資産	205,870	242,408
敷金及び保証金	3,218,505	3,096,906
その他	31,078	29,548
貸倒引当金	△26,735	△26,713
投資その他の資産合計	3,847,691	3,741,669
固定資産合計	14,496,584	14,191,562
資産合計	21,664,935	20,818,341

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	924,915	893,940
短期借入金	3,697,000	3,622,200
1年内返済予定の長期借入金	1,212,580	1,339,425
リース債務	57,864	46,951
割賦未払金	300,006	305,344
未払金	425,147	555,421
設備関係未払金	163,927	24,353
未払費用	865,363	819,690
未払法人税等	251,791	103,361
未払消費税等	43,890	236,884
賞与引当金	116,686	115,800
転貸損失引当金	9,539	2,890
資産除去債務	22,998	53,102
その他	371,335	517,031
流動負債合計	8,463,045	8,636,396
固定負債		
長期借入金	6,052,564	5,412,896
リース債務	151,232	138,343
長期割賦未払金	733,288	680,411
繰延税金負債	186,189	186,105
役員退職慰労引当金	129,342	135,856
退職給付に係る負債	432,798	428,606
資産除去債務	383,950	358,622
その他	261,385	276,063
固定負債合計	8,330,753	7,616,905
負債合計	16,793,799	16,253,302
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	△798,241	△1,111,755
自己株式	△9,065	△10,002
株主資本合計	4,847,177	4,532,726
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,642	11,297
為替換算調整勘定	6,294	16,676
退職給付に係る調整累計額	5,021	4,338
その他の包括利益累計額合計	23,958	32,312
純資産合計	4,871,135	4,565,039
負債純資産合計	21,664,935	20,818,341

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	10,261,896	13,903,719
売上原価	4,077,521	5,283,562
売上総利益	6,184,375	8,620,156
販売費及び一般管理費	8,001,923	9,121,777
営業損失(△)	△1,817,548	△501,620
営業外収益		
受取利息	1,823	1,746
受取配当金	1,738	1,819
受取地代家賃	33,508	23,491
助成金収入	1,907,145	499,718
その他	15,733	12,706
営業外収益合計	1,959,949	539,481
営業外費用		
支払利息	57,786	65,456
支払手数料	48,500	895
賃貸収入原価	14,837	3,216
その他	482	307
営業外費用合計	121,606	69,875
経常利益又は経常損失(△)	20,794	△32,014
特別利益		
固定資産売却益	1,954	—
特別利益合計	1,954	—
特別損失		
固定資産除却損	4,461	1,061
減損損失	27,044	157,911
賃貸借契約解約損	11,557	101,650
特別損失合計	43,063	260,623
税金等調整前四半期純損失(△)	△20,314	△292,638
法人税、住民税及び事業税	31,312	57,067
法人税等調整額	66,627	△36,192
法人税等合計	97,939	20,875
四半期純損失(△)	△118,253	△313,513
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△118,253	△313,513

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△118,253	△313,513
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△696	△1,345
為替換算調整勘定	759	10,382
退職給付に係る調整額	△836	△683
その他の包括利益合計	△773	8,353
四半期包括利益	△119,026	△305,160
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△119,026	△305,160

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△20,314	△292,638
減価償却費	367,027	377,940
減損損失	27,044	157,911
のれん償却額	11,402	6,066
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△64	△22
賞与引当金の増減額(△は減少)	9,313	△886
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	8,226	6,513
転貸損失引当金の増減額(△は減少)	△6,648	△6,648
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△46,034	48,531
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△30,066	△5,221
受取利息及び受取配当金	△3,562	△3,565
助成金収入	△1,907,145	△499,718
支払利息	57,786	65,456
為替差損益(△は益)	△17	△868
固定資産売却損益(△は益)	△1,954	—
固定資産除却損	4,461	1,061
賃貸借契約解約損	11,557	101,650
売上債権の増減額(△は増加)	275,136	48,607
棚卸資産の増減額(△は増加)	△396,975	△264,616
前渡金の増減額(△は増加)	△20,976	△937
仕入債務の増減額(△は減少)	△246,349	△30,975
未払金の増減額(△は減少)	△39,811	130,273
未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,112,808	241,871
未払費用の増減額(△は減少)	△592,139	△55,199
預り金の増減額(△は減少)	△416,957	△24,752
前受収益の増減額(△は減少)	△22,676	131,229
その他	△22,194	△33,697
小計	△4,114,739	97,367
利息及び配当金の受取額	3,100	3,165
助成金の受取額	1,659,363	626,446
利息の支払額	△56,554	△54,793
店舗閉鎖に伴う支払額	△6,076	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△188,186	△175,189
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,703,093	496,996

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△144,925	△320,673
有形固定資産の売却による収入	1,954	—
無形固定資産の取得による支出	△39,677	△44,648
敷金及び保証金の差入による支出	△1,548	△1,304
敷金及び保証金の回収による収入	45,961	34,052
預り保証金の返還による支出	△6,200	△1,500
貸付金の回収による収入	1,257	882
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	46,091	31,355
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97,086	△301,835
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,000,000	—
長期借入れによる収入	500,000	50,000
短期借入金の返済による支出	—	△74,800
長期借入金の返済による支出	△1,508,249	△562,823
割賦債務の返済による支出	△114,165	△145,886
リース債務の返済による支出	△40,707	△30,230
自己株式の取得による支出	△383	△936
財務活動によるキャッシュ・フロー	△163,505	△764,676
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,801	6,231
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,960,883	△563,284
現金及び現金同等物の期首残高	5,116,119	3,742,508
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,155,235	3,179,223

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過の取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約から生じる収益	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896	—	10,261,896
外部顧客への売上高	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896	—	10,261,896
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3,912,251	699,293	5,541,524	108,828	10,261,896	10,261,896	—	10,261,896
セグメント損失(△)	△595,807	△127,531	△810,220	△46,170	△1,579,730	△1,579,730	△237,817	△1,817,548

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては2,274千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては24,769千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約 から生じる収 益	5,397,046	855,950	7,423,323	227,398	13,903,719	13,903,719	—	13,903,719
外部顧客への 売上高	5,397,046	855,950	7,423,323	227,398	13,903,719	13,903,719	—	13,903,719
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	5,397,046	855,950	7,423,323	227,398	13,903,719	13,903,719	—	13,903,719
セグメント利益 又は損失(△)	166	△7,609	△231,748	△15,607	△254,798	△254,798	△246,821	△501,620

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては23,676千円であります。

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては24,820千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては101,860千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては7,553千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。